

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2170200642		
法人名	医療法人社団 崇仁会		
事業所名	洞戸グループホーム天津風		
所在地	岐阜県関市洞戸大野852-1		
自己評価作成日	令和3年1月20日	評価結果市町村受理日	令和3年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/idx_nhp?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;f_gyosyoCd=2170200642-00&amp;ServicCd=320&amp;Type=search">https://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/idx_nhp?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;f_gyosyoCd=2170200642-00&amp;ServicCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人たたいよの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和3年3月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

認知症の方だけでなく、病院から退院後は、ここでと言われる方にも出来る限りお答えし、受け入れ、支援も行い、看取りをさせて頂いている。「ここで最期を暮らせてよかった」と家族、関係者の方の声も多く届いており、終の棲家としての役割をはたせている。  
また運営主体の医療的なバックアップが十分で医療依存度の高い方でもいつでも安心、安全なケアを心がけている。  
面会ができない日が続く中で本人、家族が不安にならない様に心がけ、連絡もとりお互い安心して暮らせる様に努め、常に前向きに行動していく。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

理念に沿ったケアができるように、一人ひとりに合わせた生活が笑顔で過ごせるように心掛けている。1年の目標として「絆」を掲げ、利用者と職員との関係、家族や地域とのつながりを大切にしている。医療処置が必要な人も受け入れており、母体クリニックの医師との連携や看護師の配置を手厚くして、最期まで安心できる体制にしている。コロナ禍で外出やボランティアとの交流も少なくなったが、歌や体操を取り入れレクリエーションや季節行事を工夫して、楽しく過ごせるようにしている。事業所で飼育している室内犬が癒しとなり、温かく穏やかな雰囲気になっている。医療介護専用SNSを利用し全職員が情報を共有しながら、質の向上に努めている事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は、玄関に提示し、毎朝、申し送りの前に理念を唱和して共有し、実践につなげるよう努力している。	理念を意識してケアできるように、職員が目につくところに掲示して毎朝唱和している。利用者一人ひとりに合わせたケアにつながるよう実践しているが、振り返りや話し合いができていない。	理念について話し合いの機会を作り、更に理解を深めることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な地域交流は出来ていないが、小中校の廃品回収などに協力している。地域の行事(祭)に参加している。	近所の方が玄関先の花を植える、太鼓の演奏をする、野菜を持参してもらう等の交流をしている。以前は保育園児と利用者が互いに行き来したり各種ボランティアと交流したりしていたが、現在は中断している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、会議を開いていない。今後何らかの方法で開いていけるよう検討している。	コロナ禍で現在は書面にて事業所の取り組み状況を報告している。利用者の状況や行事・活動等を記載し市に報告しているが、メンバーから意見を求めている。	書面上で意見交換するのは難しい状況ではあるが、より良いサービス向上に向けてメンバーに意見を求める工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	努力している	コロナ禍での対応、ワクチン接種、職員のチェックリスト、研修案内等についてメールで実情を伝え助言を得ている。市主催の研修やセミナーはWebで参加している。介護相談員の来訪は中断している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を予防するよう提示物を貼り、職員が意識してケアにあたるようにしている。	身体拘束しない指針を定め委員会を年4回開催し、職員研修を実施している。玄関に「身体拘束のないケアを目指します」宣言を掲示している。ベッド下にマットを敷いたり、センサーを利用したりして、転倒や言動にも注意し拘束しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の標語を施設内に貼り、予防に努めている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りがない入居者の為成年後見制度について調べて活用できるように提案している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をかけて説明し、ひとつひとつ理解、納得した上で契約出来る様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今はコロナの影響で面会が中止になっている為電話で状況を伝えたり、介護プランに意見を書いていただき職員間でシェアしている。	玄関先での面会やZOOM面会時に意見や要望を聞いたり、電話で利用者の様子を知らせて聞いたりしている。日常の生活を写真付きのたよりで隔月に郵送し、意見をもらいやすくしている。メール送信する家族もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスで意見を話し合い解決に取り組んでいる。	申し送り内容や会議議事録は、医療介護専用SNSにて全職員に周知している。業務内や医療介護専用SNSにて意見を出し、毎月のカンファレンスで話し合い、業務内容の見直しをした。職員の家庭事情や体調に合わせ希望のシフトにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が持っている能力を協議し解決に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員には必ずOJTをしっかり行い、又吸痰、リーダー研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と接する機会や交流地域で行われる勉強会など残念ながら出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査時に入居者や家族から話を聞き、その情報をスタッフ間で共有している。その後実際の状況を観ながら再度本人の困っていることを聞き安心した生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査により情報を収集している。その後は、電話などで今の状態や要望などを聞き、コミュニケーションをとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査により情報を収集している。その後は、歩き回る入居者は拘束せず声掛けしながら見守りをする等、本人の意図を組む様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日中洗濯物たたみや調理の補助、洗い物等、出来る事をしていただき、本人のやる気を引き出すように試みている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者のニーズを満たすために家族の力等を有効に利用できる関係を入居時から取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	天津風だよりで、毎月の行事などを記載し、利用者に会いに来やすいような環境を作っている。入居者様からの希望があれば家人へ電話をかけて頂いている。	携帯電話の充電や操作確認をしたり、家族への電話の取り次ぎをしたりしている。手紙を書く人には宛名や字の確認をし、年賀状が届いた人には読む支援をしている。以前は家族と外食や自宅に行く人もいた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールのソファで休んで頂くときは、気の合いそうな方同士を隣になるよう気を付けている。入居者同士のトラブル発展しないようコミュニケーションが円滑に行われるよう配慮している。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居中に亡くなられた方に四十九日と一周忌の法要には仏花を送らせていただいている。退去後に施設を訪問される家族もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者に個別ケア担当者を付けて日々コミュニケーションを取っている。また、家族との連携を常に保ち本人の思いの把握に努めている。	その人に合わせた聞き方や声の大きさを、思いや意向を聞いている。夜間帯にゆっくりと聞いたり筆談で聞いたりする事もある。おやつや飲み物は好みの物を選んでもらっている。困難な人には、表情や行動から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問をして家族にこれまでの生活歴を聞き、本人に合う介護計画を作成する。3ヶ月ごとに行うアセスメント結果をカンファレンスで話し合い、より良いサービスを行うよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、排泄チェック、入浴時の身体の状況のチェック、食事等日々のADLの変化の把握とその情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者に個別ケア担当者がおり、家族と入居者と職員の橋渡し役となって要望や希望がかなえられる様に努め、MCSにて情報を共有している。	本人や家族に要望を聞き、医師の意見も参考に介護計画を作成している。業務日誌の記録や医療介護専用SNSでの意見を基に、毎月職員でカンファレンスを行い必要時は見直ししている。看取りプランは毎週家族と話し合い支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア担当が中心となり、情報の収集、その解決策の提案等を容易にできる様カンファレンスやMCSにて情報共有されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケア担当者が本人の要望や家族の状況を把握し、家族への連絡等をその担当者が行い2か月に1回天津風だよりを送り、情報を提供している。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や地域の方に協力を得ながらニーズに応えられるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の同意のもと、かかりつけ医からの適切な医療を受けて頂いている。	入居時に希望で協力医に変更する人が多い。家族が同行しての受診時は、日頃の様子を書面で渡し受診後に報告を受けている。急な場合も電話指示や医療介護専用SNSにて対応が可能である。希望で歯科や接骨院の訪問診療を利用する人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職、看護職が医療行為以外は同じ業務を行うが、利用者の異変を適宜伝えて看護師から適切な支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	在宅療養安心病床登録事業に利用者は登録して、医療機関との連携をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時は担当医、家族に連絡をして、十分な説明を行い方針を立て共有している。ターミナル期には医師、看護師から、本人の状況変化に応じて情報提供が行われ、治療方針が決められている。	入居時に看取りに関して説明し、医療行為が必要な人も対応している。重度化した場合は、医師が家族に説明し希望に添うようにしている。業務日誌や医療介護専用SNSで情報を共有しながら、職員間で方針を統一し支援している。ターミナル期は、家族が宿泊し看取る事ができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は出来ていないが急変事故発生時は、責任者、看護師に報告出来ている。AEDの講習会は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	原則月に1回夜間想定避難訓練を行い、職員の誰もが対応できるように訓練している。	年2回の消防署の立ち会いも含め年9回の避難訓練を実施し、反省点を話し合っている。急傾斜地の危険地域指定でもあり、山側の利用者を反対側に移動する訓練もしている。水、米、オムツや感染症予防品等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の人への丁寧な言葉かけを心掛け、人格を尊重し対応している。	丁寧な言葉遣いや笑顔で接するように心掛けている。職員の気になる言動や行動は、その都度注意し、カンファレンスで話し合っている。入室時はノックし小声での声かけや呼び名は〇〇さんと希望に合わせている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相手に選択肢をもってもらい話し方でコミュニケーションをとるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の得意分野、裁縫や計算問題などしていただいたり、施設内のお手伝いをさせていただき等、その人らしく生活出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問カットでリフレッシュしたり、毎日のヘアアクセサリを工夫したり、楽しい気持ちを引き立てよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事への関心、意欲を引き出せるよう、メニューについての会話などを工夫し、コミュニケーションをとるようにしている。	希望の献立を言える人は少なく、行事食、弁当や手作りおやつで楽しみとなるようにしている。盛り付け、洗い物やお盆拭き等の出来ることをしてもらっている。食事時は音楽を流し、職員が側で介助や見守りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせて必要な栄養摂取が行えるよう水分量の確保、分食の提供など工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後30分経過後に口腔ケアを行っている。本人の能力に応じた介入をし、口腔内の清潔保持に努めている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入しており、個々の排泄パターンを考慮してトイレを促したり誘導している。リハパンをすぐに使用するのではなく尿吸収機能付きパンツを進めている。	排泄チェック表の確認やその人のペースに合わせて、声かけやトイレ誘導をしている。トイレを分かりやすい絵表示にし、パッドやパンツの種類を検討し自立できるように支援している。体調で二人介助する時もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を食事以外に午前と午後に行ったり、医師による栄養指導や、便通を促す作用のある漢方を服用していただく等しているが難しい面もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ひとりひとりの希望に沿うことは難しいがADLに合わせた入浴方法で原則として隔日に入浴を行っている。	入浴順や入浴形態は利用者に合わせ、同性介助にも配慮している。歌を歌ったり、話をしたり楽しみな入浴にしている。嫌がる人には声かけの工夫をしている。利用者の状態で足浴、手浴や清拭等に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	エアコン、床暖房、加湿器、空気清浄機などを使用して住環境を整えている。日中の休息時は個々のソファも活用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ケアモニタリングシートを作ってあり、薬の名前、効能、副作用について理解に努めている。変更時は、個別担当職員が記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の長所を生かして作業して頂くように促している。他利用者様と一緒にゲームやカルタ取りなどして楽しんで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	2020年はコロナ禍にあり、外出行事が出来なかった。出来るようになったら本人に合わせて買い物、温泉、喫茶等外出を支援していく。	コロナ禍で自由な外出ができず、近所を散歩したりドライブに出掛けている。戸外で体操、日光浴、花の水やり、洗濯物干しや取り込み、お茶を飲んで外気に触れる機会を作っている。以前は、喫茶店、道の駅、温泉や花見等に行っていた。	



洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所にお金を使うことのできる店がない事、お金を使えることができる方が極めて少ないことなどから現金を持つ必要性は少ない。持ちたい方は小額を家族の同意の上所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは出来るだけ本人や、先方の都合に合わせて行っている。手紙を書ける方には、その支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オープンキッチンや開放的な空間と光や風通しの良い間取りを採用し、かつプライベート空間を獲得している、玄関の花や窓から見える景色で季節感をはある。	ホールで過ごす利用者が増えた為、好きな場所で新聞や雑誌を読んだり会話したり、自由に過ごせるようにソファを増やした。季節の置物、飾り物や花等を飾っている。空気清浄機を置き、随時の換気、手指消毒、手すり等の消毒で感染症にも注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースとプライベート空間は確保されており、できるだけ個人の意思通りに居場所を選べるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	独居の方などは仏壇や位牌なども持ち込まれた事もあった。大切な思い出の場面の写真など家族の手で配置されていたりして入居者の心の安らぎを演出している。	使い慣れた寝具、タンス、TV、時計等を持ち込み、写真、手紙、カレンダー、花、長寿の賞状や自分の作品等を飾っている。全居室に加湿器を設置し、頻回にシーツを洗濯して居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者ひとりひとりにあった安全な環境づくりとして、転倒予防のゴムマットやベッドから床に足をついた時に作動するセンサーマットも引いて事故予防に努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200642		
法人名	医療法人社団 崇仁会		
事業所名	洞戸グループホーム天津風		
所在地	岐阜県関市洞戸大野852-1		
自己評価作成日	令和3年1月20日	評価結果市町村受理日	令和3年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;fyosyoCd=2170200642-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;fyosyoCd=2170200642-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和3年3月10日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は、玄関に提示し、毎朝、申し送りの前に理念を唱和して共有し、実践につなげるよう努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な地域交流は出来ていないが、小中校の廃品回収などに協力している。地域の行事(祭)に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、会議を開いていない。今後何らかの方法で開いていけるよう検討している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	努力している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を予防するよう提示物を貼り、職員が意識してケアにあたるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の標語を施設内に貼り、予防に努めている。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りがない入居者の為成年後見制度について調べて活用できるように提案している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をかけて説明し、ひとつひとつ理解、納得した上で契約出来る様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今はコロナの影響で面会が中止になっている為電話で状況を伝えたり、介護プランに意見を書いていただき職員間でシェアしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスで意見を話し合い解決に取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が持っている能力を協議し解決に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員には必ずOJTをしっかり行い、又吸痰、リーダー研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と接する機会や交流地域で行われる勉強会など残念ながら出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査時に入居者や家族から話を聞き、その情報をスタッフ間で共有している。その後実際の状況を観ながら再度本人の困っていることを聞き安心した生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査により情報を収集している。その後は、電話などで今の状態や要望などを聞き、コミュニケーションをとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査により情報を収集している。その後は、歩き回る入居者は拘束せず声掛けしながら見守りをする等、本人の意図を組む様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日中洗濯物たたみや調理の補助、洗い物等、出来る事をしていただき、本人のやる気を引き出すように試みている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者のニーズを満たすために家族の力等を有効に利用できる関係を入居時から取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	天津風だよりで、毎月の行事などを記載し、利用者に会いに来やすいような環境を作っている。入居者様からの希望があれば家人へ電話をかけて頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールのソファで休んで頂くときは、気の合いそうな方同士を隣になるよう気を付けている。入居者同士のトラブル発展しないようコミュニケーションが円滑に行われるよう配慮している。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居中に亡くなられた方に四十九日と一周忌の法要には仏花を送らせていただいている。退去後に施設を訪問される家族もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者に個別ケア担当者を付けて日々コミュニケーションを取っている。また、家族との連携を常に保ち本人の思いの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問をして家族にこれまでの生活歴を聞き、本人に合う介護計画を作成する。3ヶ月ごとに行うアセスメント結果をカンファレンスで話し合い、より良いサービスを行うよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、排泄チェック、入浴時の身体の状況のチェック、食事等日々のADLの変化の把握とその情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者に個別ケア担当者がおり、家族と入居者と職員の橋渡し役となって要望や希望がかなえられる様に努め、MCSIにて情報を共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア担当が中心となり、情報の収集、その解決策の提案等を容易にできる様カンファレンスやMCSIにて情報共有されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケア担当者が本人の要望や家族の状況を把握し、家族への連絡等をその担当者が行い2か月に1回天津風だよりを送り、情報を提供している。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や地域の方に協力を得ながらニーズに応えられるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の同意のもと、かかりつけ医からの適切な医療を受けて頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職、看護職が医療行為以外は同じ業務を行うが、利用者の異変を適宜伝えて看護師から適切な支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	在宅療養安心病床登録事業に利用者は登録して、医療機関との連携をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時は担当医、家族に連絡をして、十分な説明を行い方針を立て共有している。ターミナル期には医師、看護師から、本人の状況変化に応じて情報提供が行われ、治療方針が決められている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は出来ていないが急変事故発生時は、責任者、看護師に報告出来ている。AEDの講習会は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	原則月に1回夜間想定避難訓練を行い、職員の誰もが対応できるように訓練している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の人への丁寧な言葉かけを心掛け、人格を尊重し対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相手に選択肢をもってもらう話し方でコミュニケーションをとるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の得意分野、裁縫や計算問題などしていただいたり、施設内のお手伝いをしていたり、その人らしく生活出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問カットでリフレッシュしたり、毎日のヘアアクセサリを工夫したり、楽しい気持ちを引き立てるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事への関心、意欲を引き出せるよう、メニューについての会話などを工夫し、コミュニケーションをとるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせて必要な栄養摂取が行えるよう水分量の確保、分食の提供など工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後30分経過後に口腔ケアを行っている。本人の能力に応じた介入をし、口腔内の清潔保持に努めている。		



洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入しており、個々の排泄パターンを考慮してトイレを促したり誘導している。リハパンをすぐに使用するのではなく尿吸収機能付きパンツを進めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を食事以外に午前と午後に行ったり、医師による栄養指導や、便通を促す作用のある漢方を服用していただく等しているが難しい面もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ひとりひとりの希望に沿うことは難しいがADLに合わせた入浴方法で原則として隔日で行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	エアコン、床暖房、加湿器、空気清浄機などを使用して住環境を整えている。日中の休息時は個々のソファも活用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ケアモニタリングシートを作ってあり、薬の名前、効能、副作用について理解に努めている。変更時は、個別担当職員が記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の長所を生かして作業して頂くように促している。他利用者様と一緒にゲームやカルタ取りなどして楽しんで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	2020年はコロナ禍にあり、外出行事が出来なかった。出来るようになったら本人に合わせて買い物、温泉、喫茶等外出を支援していく。		

洞戸グループホーム天津風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所にお金を使うことのできる店がない事、お金を使えることができる方が極めて少ないことなどから現金を持つ必要性は少ない。持ちたい方は小額を家族の同意の上所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは出来るだけ本人や、先方の都合に合わせて行っている。手紙を書ける方には、その支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オープンキッチンや開放的な空間と光や風通しの良い間取りを採用し、かつプライベート空間を獲得している、玄関の花や窓から見える景色で季節感をはある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースとプライベート空間は確保されており、できるだけ個人の意思通りに居場所を選べるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	独居の方などは仏壇や位牌なども持ち込まれた事もあった。大切な思い出の場面の写真など家族の手で配置されていたりして入居者の心の安らぎを演出している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者ひとりひとりにあった安全な環境づくりとして、転倒予防のゴムマットやベッドから床に足をついた時に作動するセンサーマットも引いて事故予防に努めている。		